

反動の嵐に抗して！

2012年
6月6日
No 20

JR 東海労働組合
台検車両所分会
発行者 西村泰弘
編集 教宣部

大飯原子力発電所、再稼働絶対反対！！

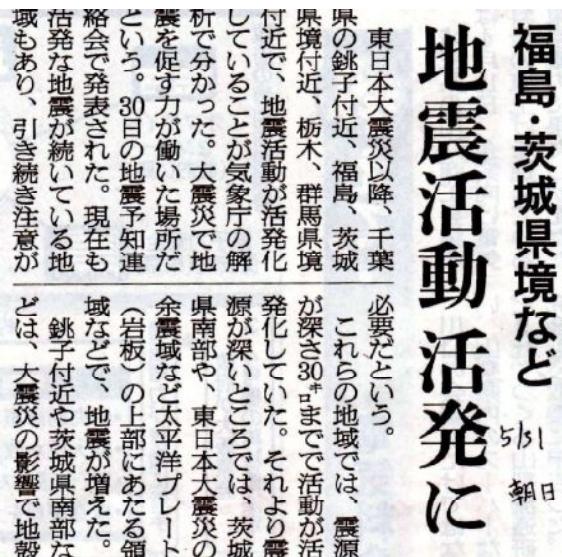
政府は5月30日に関西電力大飯原発3、4号機の再稼働を近く最終決定することを決めました。野田首相は「国民の負担増抑制などのため」さらには「自分の責任において」ということも言っています。

しかし、今だに福島第一原子力発電所の事故の原因が特定出来ていません。

したがって、安全対策も十分ではありません。

これでは、福島第一原子力発電所の事故前と、なんら状況は変わっていないのです。

ですから、野田首相が「自分の責任において」と言われても、どう責任をとるというのでしょうか？こんな無責任な話はないのではないでしょうか？



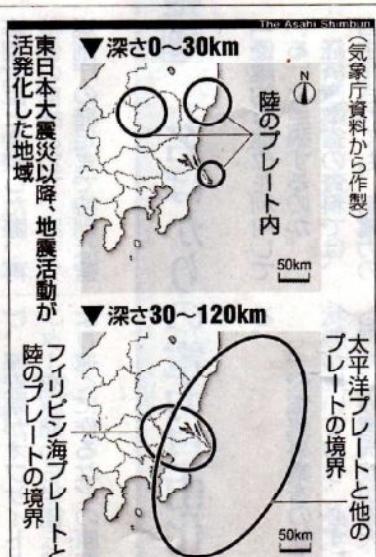
いつ、大地震がおきてもおかしくない

5月31日付けの朝日新聞の記事によると、福島周辺でいつ大地震が起こってもおかしくないことが書かれています。

今、福島第一原子力発電所には広島に落ちた原爆数千発分の燃料棒があります。

もし、この燃料棒が大気に触れ放射性物質を撒き散らすことになったら、どうなるのでしょうか？

日本は壊滅的な大打撃を受けることになるのは、容易に想像出来ます。



気象庁は「しばらく活発活動が低下している。群馬県境などでは、徐々に活動が変化して、地盤を促す力が弱まっている。」と述べています。これは、大震災の影響で地殻

消えた関西電力の文書

6月1日付けの夕刊ゲンダイによると、関西電力は5月15日に行われた大阪府市エネルギー戦略会議において、「再稼働なしでも停電させないようにする」という方針を打ち出し、資料まで配布していたそうです。

しかし、29日に開かれた同会議に配布された関西電力からの説明資料には、「再稼働なくとも停電させない」という文面や数値が消えていたそうです。関西電力としては、大飯原発が再稼働しなくともいいように、電力確保の準備を進めていたのです。

しかし、なぜ、そのようなことが出来なくなつたのでしょうか？

原子力発電所が稼働することで、多くの利益をえることが出来る人たちや企業などから圧力がかかったのではないかでしょうか？

私たちとは再度訴えます！！

このまま原子力発電所を再び稼働し、「使用済み核燃料」を再処理すれば捨てるに捨てられない放射性物質が増え続けます。さらに核兵器の材料（高濃度のウランやプルトニウム）を作ることは、人類の最悪の事態を引き起こしかねません。

今すぐすべての原子炉を廃炉にし、国のエネルギー政策を原発に頼らないものに作り変えることこそ、私たちに課せられた急務な課題ではないでしょうか？

そのことこそが、将来を担う子どもたちの未来を守ることに繋がるのでないでしょうか？！

関西電力が「大飯原

略会議が29日に開かれた

必要がある。